

実録!!大崎一万発の波乱万丈銀玉人生

# おかの日本の時あの一占

パチンコ必勝ガイド編集部編

おガイドだけ変わったと言えないのが



1993年8月15日号

## 第14話 エキ サイトジャック [ニューギン]

今年もやっぱり激動でありますね。毎年毎年、いろんなことありすぎて退屈しませんわ。気の休まる暇もないけど。とりあえず、白夜書房とガイドは、もう関係なくなりました。いや?、まさかまさかの展開です。

表紙の扱いは地味だが、この号に掲載されても、超A級のネタとして未だ語り継がれ

た『エスケープ2』の体感器攻略ネタは、効果も使えた期間にしている。僕の知人は、これで貯めたカネで飲み屋始めました。

ない。移行期間として、定期刊行物を6月まで休刊するが、その後は再刊行される(予定)。編集部は同じビルから動かない。携わる人たちも基本的に同じであるから、クオリティが低下することもない。形としてはほとんど何も変わらない……のだが、僕にとってはそういう問題ではないのだ。  
僕は「白夜のガイド」で育った。そこでより一層パチンコを好きになり、同時に編集という仕事も学んだ。人生の方向性とも言うべきものを教えてくれた場でもあった。僕の中では、ガイドは、白夜でなくてはならないのだ。一体であり、決して切り離せぬものだ。発行人から末井さんの名前が消え、違う版元から出されたガイドは、見た目や中身が同じであっても、もはやガイドではない。  
理屈ではない。感情論として、そして感傷として、誰にも理解されないとかわかって言っている。「元編集長としてのことは、大崎さんはガイドワークスの社員だったんですか?」、若い人からこんなことを言われるのを、どう受け止めればいいのか? 関係者各位には本心に申し訳ないが、ひとつの時代が終

いたことがある。  
当連載の舞台でもある「パチンコ必勝ガイド」が、白夜書房を離れ、新会社(株)ガイドワークスから発行される運びとなった。白夜書房子会社の不祥事に伴う措置で、系列コアマガジンも含めパチンコ・パチスロ関連誌すべての編集部が移籍する。体制を一新して再スタートを切るわけである。  
すなわち、「白夜のガイド」は消滅した。突然に、誰も予期せぬ形で、僕の故郷がなくなった。いや、びびくりした。パチンコなんかより、はるかに現実の方がサプライズである(↑当たり前前か)。もちろん、雑誌がなくなるわけでは

パチンコ必勝ガイドが  
白夜書房じゃなくなる

### エキサイトジャック2[ニューギン/1993年]

まるでヒットしなかったが、2007年に甘デジスベックでリメイクされている。ウケないのはわかりきってるのだから、ジャックの名前を汚さないでほしい。



基本データ	
大当たり確率	223分の1
賞球	7&9&14
大当たり出玉	約2,200個
備考	7とPW絵柄は必ずWリーチとなるプチラッキー機能搭載。

わったとしか感じられないのである……つね、辛気くさい話はヤメじゃヤメ! 今後を担う若手編集部員には、こんなOBの感傷なんかプチ壊す誌面を期待したい。結果、良かったじゃん!」となることを、心よりお祈りしております。  
そんなわけで、この連載も、名実共に「昔話」を運べる場となってしまった。まあ世の中もパチンコも大きく変わったよな、みたいな話ばかりにしていてガイドだけ変わらない方がおかしいかっただけでもあるから、これぞちょうどいいバランスになったのかもれないが……。  
さて今回は「エキサイトジャック」シリーズを採り上げたい。一風変わった連チャン性で大人気を博した「ニューギン」のドラム式デジパチである。同内容(盤面デザインもほとんど同じ)の出玉違いで3種の兄弟機が存在したが、設置されたほとんどが「出玉2200個」の「2」だった多くのデジパチが2300個の中ジャックだけ

連チャンするなら4発以上  
セット式で人気爆発!

少なかったわけだが、その理由はズバリ、「過激すぎた」からである。  
中身は大当たり中の「ゴニョゴニョ」で保留玉を書き換える「王道」の連チャンシステム(攻略要素はなく完全な運任せ)。その際、4個の保留玉をセットで書き換えるところがジャックオリジナルである。見事「当たり」が含まれるセットが選ばれた場合は、最低でも4連以上が確定。保留玉1個目で連チャンすれば5連、2個目なら4連(すべて保留玉1個目で発生)、さらに連チャン中も同様の書き換え抽選があり、セットの「上乘せ」も大いに期待できるといって、ナカナカの傾奇野郎だった。  
書き換え率=連チャン発生率は約9%。しかし一旦刺されれば、ドンドン刺さる。2連したら、その85%が4連チャン以上に発展した。トータルで連チャン率は26.5%である。  
単発か、大連チャンか。回睡を飲んで見守る保留玉1個目&2個目のアツさと言ったら……ドラム表示のリーチ演出があまりにそつけないだけに、むしろ中毒性も増す完全ジャンキー仕様。これしか打たない熱烈的ファンも多く、社会的に不適合機撤去ギリギリまで長く愛された名機だった。  
個人的には、パチンコの聖地・上野のN店でよく打っていた思い出がある。連チャンした記憶は1回しかないのだが、狭苦しい鉄火場の雰囲気が好きで……そのN店も、今はゲームセンターとなつて久しい。

### こぼれネタ

賞球以外は基盤を取り替えても(たぶん)作動するほどソックリな3兄弟だったが、唯一、リーチ予告の発生タイミングだけが異なっていた。当時の機種としてはかなり斬新なことに、本機には予告演出が搭載されていたのである。といっても、中出目停止の直前に、通常とは違う効果音が鳴るだけなのだ。が、大当たり後の保留玉においてはこのシンプルさがまたタマラン演出となったのである。

OSAKI  
ICHIMANPATSU

大崎一万発 / おおさき いちまんぱつ  
パチンコ情報誌『パチンコ必勝ガイド』(白夜書房)元編集長。現在はフリーランスとして多数のファン雑誌・情報誌に連載を持つ傍ら、テレビ・ラジオの専門チャンネルやホールイベントでも幅広く活躍中。その実績はただのパチンコ中書とか、『パチスタ★TV レバーオン』にもゲストで出演中!  
Blog <http://love-pachi.com/>  
Twitter [@manpatsu](https://twitter.com/manpatsu)